

# 令和2年度静岡県環境保全型農業直接支払制度に係る 評価委員会議事録

## 1 開催方法

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、下記のとおり担当職員が委員に対して直接説明を行った。

## 2 開催日時

### (1) 内田英司委員（㈱静鉄ストア）

日時 令和3年3月11日（木）午後1時30分から午後2時30分まで

場所 ㈱静鉄ストア本社（静岡市葵区末広町95）

説明者 班長加藤、主任石川

### (2) 船戸修一委員（静岡文化芸術大学）

日時 令和3年3月15日（月）午前11時から午後0時45分まで

場所 静岡文化芸術大学（浜松市中区中央2-1-1）

説明者 班長加藤、主任石川

### (3) 稲垣栄洋委員長（静岡大学）※本年度委員長に選任

日時 令和3年3月17日（水）午前10時から午前11時まで

場所 オンライン開催（Zoom使用）

説明者 班長加藤、主任石川

### (4) 野中正子委員（静岡県消費者団体連盟）

日時 令和3年3月24日（水）午後1時から午後2時まで

場所 浜北地域活動研修センター（浜松市浜北区於呂2829-1）

説明者 課長代理酒井、主任石川

### (5) 吉田茂委員（しずおかオーガニックウェブ）※本年度から委員に選任

日時 令和3年3月25日（木）午前10時から午前11時30分まで

場所 しずおかオーガニックウェブ事務所（焼津市西小川5-20-10）

説明者 班長加藤、主任石川

## 3 内容等

### (1) 事業説明

環境保全型農業直接支払交付金事業の実施状況の点検及び事業に対する意見交換を行った。

ア 環境保全型農業直接支払交付金事業の概要について

本事業の概要、事業実施状況及び第1期（平成27年度から令和元年度）の事業評価について説明した。

イ 令和元年度事業実績について

本県の令和元年度事業実績を説明した。

ウ 令和2年度事業実施状況について

令和2年12月末時点の事業実施状況、推進活動の事例及びGAP研修会の開催を説明した。

エ 令和3年度事業計画について

国の事業概要、第2期（令和2年度から令和6年度）の事業評価スケジュール及び県の事業概要を説明した。

(2) 委員からの意見

ア 船戸委員

- ・県特認取組である水稻IPMを県内全域に拡大するため周知を行ってほしい。
- ・GAPの実践を周知する際は農業者へ丁寧に説明していただきたい。
- ・学校給食へ環境保全型農業による農産物を優先的に使用できるようなシステムを検討していただきたい。

イ 内田委員

- ・健康志向の消費者は有機農産物の購入量が多い。
- ・有機農産物を拡大するためには販路を広げる取組が必要。
- ・消費者の有機に対する意識を変えなければ消費は拡大しない。

ウ 野中委員

- ・環境保全型農業に取り組む農業者への直接交付金があることは評価できる。
- ・事務負担の軽減により有機農業が参入しやすくなるような体制があるとよい。
- ・生物多様性の評価は意義が合つてとてもよい。外来生物の調査なども併せて行えるとよい。
- ・しずおか認証の内容について理解できた。

エ 吉田委員

- ・環境保全型農業の推進が気候変動の緩和、生物多様性の維持・増進に役立つものであることを、広く県民に理解してもらう必要がある。
- ・県としても国に予算規模を拡大するよう積極的に働きかけるべき。
- ・新規就農者がもれなく事業対象となるよう、農林事務所を通じて積極的に指導してほしい。
- ・有機農業は本年5月までに2050年100万ヘクタールの目標設定が確実視されるため、これまでとは違う次元で推進しなければならない。
- ・令和3年度は推進事業費等を活用し、シンポジウムなど消費者など広く県民の理解を深める事業を推進すべき。
- ・生物多様性に関する調査は、県民に環境保全型農業を知ってもらう上で、有効なツールになるため、国報告のための調査だけでなく、学校や市民団体と連携して、児童・生徒、学生、一般市民など広く参加してもらい、各地域で調査を行うような工夫をしたらどうか。
- ・シンポジウムの開催や生物多様性調査など、しずおかオーガニックウェブも共催等の形で協力していきたい。

4 配付資料

- 資料1 環境保全型農業直接支払い交付金事業の概要について
- 資料2 令和元年度事業実績について
- 資料3 令和2年度事業実施状況について
- 資料4 令和3年度事業計画について

上記のとおり令和2年度静岡県環境保全型農業直接支払制度評価委員会の審議経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成する。

令和3年3月26日

委員長

稲垣栄洋

議事録署名人

野中正子